

漢蘭酒話

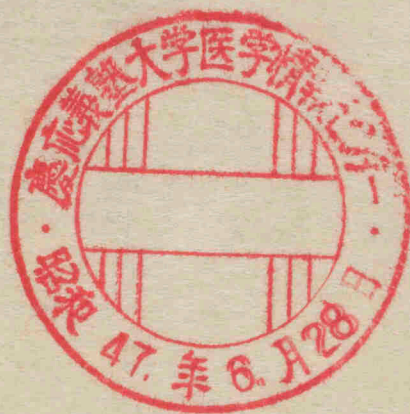
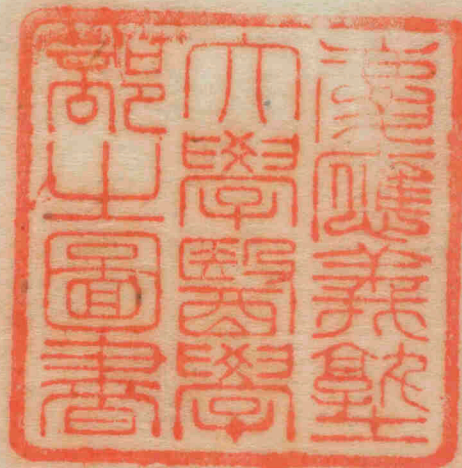
續



k 48-2

490.4
Ka-7
4

No. 2537
12 K 48.2



富士川文庫

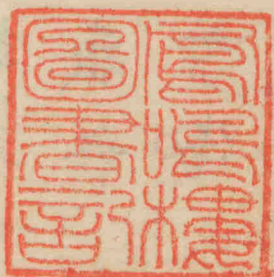
667



漢蘭酒詒續篇

題詞

半椀主人 著



昨夜某氏ニ約セシ如ク黄昏ノ時
ヨリ濁醪一樽携テ其家ヲ訪ヒ夕
レハ主人宅ニ在リテ余カ至ルヲ
待居タリ礼辞終ルヤ否直ニ酒ヲ
温メ肴ヲツラ子復夕時昔ノ如ク
初メハ世訖雑詒ニテ對酌セリ献
酬數廻ニ及ヒ余頗ル酒力ヲ得テ

鳥喙將二三尺十ラニトスル頃又
經談史話ノ心動ケリ。主人其色ヲ
視テ。暫ク盍ノ献酬ヲ休メ。儒談医
論ヲ促シヌ。
○主人乃問曰。疳昔問フ処ノ痘瘡ノ原因。
庶クハ詳ニ説キ言フテ。愚カ惑ヲ解キ
玉フベシ。余荅曰。漢家ニテハ錢氏カ小
兒直訣ト云フ書ニ。痘瘡ノ原因ヲ論シ
置キタリ。其言ニ曰。小兒在胎。食五藏血
穢。伏於命門。若遇天行時熱。或乳食所傷。

或驚恐所触。則其毒當出。又此説ノ非ナ
ルヲ。魏氏カ博愛心鑑ト云フ書ニ。排斥
シタリ。其言ニ曰。前人謂痘出之由。言小
兒初生時。口含胎血。咽下至於腎經。以致
如此。予謂非也。且兒在胞中。氣團於内。血
護於外。内外堅固。風氣不通。惟臍帶中隨
母呼吸。水穀之氣。皆入兒腹。即胞漿是也。
以此長養兒軀。如血走漏。其胎不成。或有
墮胎者。此則損傷胎血故也。及至降生。其
根蒂脫於左腎。母氣始離。而授於子氣。即

從丹田湧出。兒之口鼻。鬱悶不禁。頭重子
躰。故從下湧躍而出也。豈有兒含胎血之
理。間有降生之際。母血太盛。灌入口鼻者
有之。總人胎血灌入口鼻。而咽下腸胃。開
乳之後。亦必從大便而出矣。夫豈有_下逆入
腎經之事乎。且腎有_二一為腎。一為命門。_一
皆繫於助之。左處。權腎兩傍。初無門路通
腎。况血本有形之物。亦母形之餘。何由含
兒之口咽下入腎藏。畜至一歲及六七十
歲。而後始為毒。此說_二テ。錢氏力痘瘡

原因ノ説ハ破レタリト謂フベシ。是他
啞科ノ書ニ。痘瘡ノ因ヲ色々ニ論シア
レ氏。何レモ皆蘭説ナド、同然ニテ。先
天ノ遺毒ト云フヲ漏レサルナリ。然シ
果シテ諸説ノ如ク。痘瘡ハ胎中ヨリ受
タル病毒ナラハ。先秦以上ノ人ニモ有
ルヘキ筈ナルニ。何ニトテ漢代以來始
テ世ニ起リタルヤ。既ニ素問ニ據レハ。
先天ノ遺毒ハ。往古ノ人ニモアリタル
者ナリ。左スレハ。痘瘡トテモ。上古ノ世

一。無キ筈ナカルベシ。是可疑ノ一ナリ。
素問奇病論ニ曰ク。帝曰。人生而有病巔
疾者。病名曰何。安所得之。岐伯曰。病名为
胎病。此得之在母腹中時。其母有所大驚。
氣上而不下。精氣並居。故令子癎為巔疾
也。コレニ據レハ。上古ノ時。既ニ先天ノ
遺毒アリシモノナル明徴ナリ。又痘瘡
ハ必定先天ノ遺毒ナリハ。胎中ヨリ癎
瘡毒ナドヲ受ケ来ルモノ同然ノ丁ナレ
ハ。一生ノ内。幾度トナク病ムモノモア

ルヘキ筈ナルニ。痘瘡バカリハ。生涯ノ
中ニ一度ト限ルモノハ。可疑ノ二十ナリ。
又痘瘡ハ必ス病毒ト為サハ。如何程ノ
順症ニテモ。藥治ナクテハ。治ス間敷ハ
ヅナルニ。痘瘡バカリハ。縦ヒ一身稠密
ニ出来シトモ。順症ナルモノハ。一服ノ
藥用ナクシテ。見點ヨリ落痂ニ至リ。癎
形モナク愈ルハ可疑ノ三十ナリ。又先天
ノ遺毒。癎瘡ノ類ハ。人々必スシモ受ル
モノニテモ無キニ。痘瘡ノ先天遺毒ハ

カリハ。百人カ。百人ニテ。必ス急度受ケ
サル人無キハ。可疑ノ四十リ。又痘瘡無
キ八丈嶋ノ如キ土地ノ人モ。伊豆國十
トノ痘瘡有ル土地ニ来レハ。矢張痘瘡
ヲ染スルヲ看レハ。痘瘡ノ毒ヲ胎中ヨ
リ受ケ来ルハ。何レノ所ノ人モ同然ナ
レハ。只其天地流布ノ爪氣異ナルニハ。
癩出セサルモノナルカ然シ其胎毒ヲ
肉ニ蓄ヒ置ケハ。必ス他患ヲナシテ病
身ニアルハ。キ筈ナレハ。八丈島ノ人ト

テモ。痘瘡ヲ癩出セシ人同然ニ。別ニ餘
病ナク。一生壯健ナルハ。可疑ノ五十リ。
是ヲ以テ余ハ。乃チ以テラク。痘瘡ノ源
因ハ。病ニ非ス。軀中有^餘無用ノ精液ナリ。
諸フ足下ノ為メニ。詳ニ其義ヲ辨セシ。
夫レ人ノ精液。父母ヨリ稟ルモノハ。元
真ト云フ。其元真ノ精液ヲ補益シテ。尽
キサラシムルモノハ。本皆飲食ニテ醸
シ成スモノナリ。上古ノ世ハ。人氣質朴
ニシテ。飲食ノ制節。五味ノ調和モ。中適

ヲ失ハサル故。身軀有用ノ精液ノミ生
スレト。後世ニ及テハ。人氣奢侈ニ流レ
肉食穀食魚食菜食ノ國トナク。皆飲食
度ナク。五味調ヲ失ト。滋味ノ養中適ヲ
過クル故。人軀自然一種有餘無用ノ精
液ヲ醸シ成シテ。其子ニ傳ナルモノナ
リ。叔テ其有餘ノ精液ハ。軀中無用ノ長
物ナレハ。兒童ノ時ニ血未タ定ラズ。肌
肉未タ堅カラズ。專テ長畜セントスル
勢ニ乘シ。天地自然ノ人ノ精液ヲ動ス流

布ノ衣ノ感スルヲ待テ。一身ノ良能能
ク其無用ノ精液ヲ。皮膚ノ間ニ発出セ
シムルモノ也。是痘瘡ノ原因ナリ。是ヲ
以テ。痘瘡ハ上古質朴ノ世ニ無クシテ。
後未奢侈ノ世ニ及テ始テ起ル所ナリ。
又痘因ハ病毒ノ如ク。滲侵スルモノニ
非ル故。先天ノ餘精。兒軀專テ長畜ノ勢
アル時。一夕ニ外ニ発出スレハ。其根抵
尽ルニ至ル。生涯一度ヨリ痘出ナキ所以
ナリ。叔又身体生長ノ後。飲食ヨリ漸ク

又有餘ノ精液ヲ醸シ成セドモ其頃ニ
ハ氣血稍定リ。肌肉亦堅ク。長育ノ勢專
テナラザルエハ。縦ヒ天地動搖ノ氣ニ
感スルトモ。自醸ノ餘精。已カ良能ノ力
ニテハ。發出スル下能ハズシテ。又其種
ヲ子ニ傳フルナリ。痘因ハ固ヨリ病毒
ニ非サル故。縦ヒ一身稠密ニ出未シト
モ。他病混入ナキモノハ。一服ノ藥用ナ
クシテ。癍形モナク愈エル所以ナリ。又
其有餘無用ノ精液ハ。人胎中ヨリ有用

ノ精液ヲ受ル時。同ク混受スルモノ故。
凡ソ人タルモノ。百人カ百人迄。皆其種
ヲ受サルモノ無キ所以ナリ。又痘因ヲ
胎中ヨリ受ケ来ルナハ。何レノ国ノ人
モ。皆同然ナレハ。只土瓜異ナリテ。天地
人精ヲ感スル流布ノ氣ナクシテ。一生
癍痘ナキ所モアレハ。本ト病毒ニ非ル
エハ。其所ノ人モ。別ニ毒氣蓄蓄シテ。餘
病ヲ成スノ患ナクシテ。痘瘡發出スル
土地ノ人ト。同然ナル所以ナリ。扱テ其

中ニ毒瘧ト云フモノアリテ。種々ノ唯
症ヲ起スモノアルハ。先天ノ餘精兒胎
ニ発出セントスル時。胎中ノ遺毒濕出
シ。或ハ天地流布スル気ニ邪風ヲ帶テ
人ニ感シ。或ハ有餘ノ精液発出ノ時。同
気相求テ有用ノ精液ニテ誘引シテ俱
ニ発出セシメ。遂ニ表裏虚脱ニ至シム
ルモアリ。又薛瘧疔ナトノ如キ。偽瘧ヲ
難発シテ種々言ヒ難キ惡症ヲ起シテ。
竟ニ死ニ至ラシムル者アリト雖トモ。

夫ハ畢竟他病濕入ノ瘧瘡ニシテ。瘧瘡
ノ持前トハ云フヘカラスルモノナリ。
漢蘭ノ先哲皆此理ヲ知ラズ。瘧瘡ハ偏
ニ病毒ナリト思ヒシハ。大ナル誤ナリ
ト云フヘシ。叔テ今論スル如ク。惡瘧ニ
至ル因應ハ一ナラス。胎中ノ遺毒濕入
或ハ天地不正ノ邪ニ感シ。或有用ノ精
液誘引ニ依テ虚脱シ。或血液不順ニシテ。
薛瘧疔ナドヲ生スルニ依ルモノ有リ
ト。虽十ノ九ツハ天地不正ノ邪ニ感シ

テ。唯症ヲ起スモノ多シ。縦ニ其兒胎中ノ遺毒アルモ。資質虛分ニナリ。易キ持前ニテモ。血液不順ニ至ル。元未ノ身軀ニテモ。天地布流スル氣ニ邪ヲ帶サレハ。必スシモ其時ニ遽ニ胎毒動発シ。表裏虛脱シ。血液不順ニナルモノニテモナケレハ。元未兒體ニ不足アル所ニ。不正ノ邪ヲレヲ犯セハ。必ス惡症発起セサル。丁ヲ得サルナリ。外感ノ邪ハ。必スシモ一ニ非。其時流布ノ氣ニ帶ヒシ邪肌

ノ模様ニテ。惡症ヲ起ス形状モ。一ナラサルモノ故。痘瘡流行ノ時ハ。惡症ノ形状。大抵一般相似タルモノナリ。又天地自然ノ氣ニ感スルヲ待スシテ。種痘スレハ。邪風ノ感ヲ免ル。故十人ノ七八人迄ハ。輕痘ナル所以ナリ。是豈ニ種痘ノ人軀中ノ毒氣本ヨリ少キナランヤ。左スレハ惡痘ニ至ルモノハ。十二九ツハ。不正ノ邪氣ニ触シニ起ルモノナリト知ベシ。

○某氏又問曰。痘瘡ノ原因ハ。先生ノ説ノ如ク。飲食ニテ醸シ成シタル。一種ノ有餘ノ精液トナサハ。其癸出ハ必スシモ小兒ノ時ニ限ラズ。人ノ齡長スル程。飲食ニテ有餘ノ精液多ク成ルベキ筈ナレハ。大人ノ時。復癸出アルヘキトニ思ル。ナリ。然ルニ癸痘ハ。小兒ノ時ニ限ルハ。如何ナル義ソヤ。余荅曰。先キニ言フ如ク。己ノ自ラ飲食ニテ有餘ノ精液ヲ醸成ス時ハ。年齒最早壯年ニ至リ。氣

血既ニ定リ。肌肉堅牢ニ至リ。長育ノ勞專ラナラザル故。天地感精ノ爪氣ニ触ルトモ。有餘無用ノ精液ヲ。己ノ良能ニテ癸出スル丁能ハサルナリ。夫故其餘精子ニ傳ヘ。其子小兒ノ時。先天稟受無用ノ精液ヲ。專ラ長育セントスル勢ト。一身自然ノ良能ト。天地感精ノ爪氣ト。相合シテ癸出スルモノナリ。凡ソ人ハ素問ニノ玉ヲ如ク。女子陰物ニテ陰ハ總テ陽數ヲ以テ盛衰スルモノ故。七歳

少陽ノ數ノ年ニテ。腎氣盛ニ十リ。二七
十四歳ニシテ。其盛ヲ極メテ。子ヲ生ス
ルモノナリ。故ニ其年ニ至レハ。氣血定
リ。長育セントスル勢。專ラナラザルモ
ノナリ。男子ハ陽物ニテ。陽ハ總テ陰數
ヲ以テ盛衰スルモノ。故ハ八歳少陰ノ數
ノ年ニテ。腎氣衰シ。二八十六歳ニシテ。
其衰ヲ極メテ。子ヲ生スルモノナリ。故
ニ其年ニ至レハ。氣血定リ。長育セント
スル勢。專ラナラザルモノナリ。是ヲ以

テ癸癸ハ胎ノ歳ヨリ。女子ハ十四歳
マテ。男子ハ十六歳マテノ間ニスルハ。
常法ナリ。或ハ兒童ノ時。癸出ノ期ヲ失
ヒハ。氣血既ニ定リ。肌肉堅牢ニ至リテ。
一生癸癸ヲ免ル。モノモアリ。又其人
ノ資質ニ依テハ。老後ニ癸癸スルモア
レ也。是ハ非常ノ事ニテ。常理ノ論スル
所ニ非ルナリ。素問上古天真論篇曰ク。
女子七歳。腎氣盛。齒更。髮長。二七而天癸
至。任脉通。太衝脉盛。月事以時下。故有子。

丈夫八歳腎氣實。髮長齒更。十八腎氣盛。
天癸至。精氣溢。寫陰陽和。故能有子。
一。女子十四歳男子十六歳。二。氣
血定。リ長育セ。ントスル勢。専ラナラサ
ルヲ見ルヘシ。
○某氏又問曰。疇昔問フ如ク。痘瘡バカリ
ハ。餘病ト異ナリ。必ス痘神憑リテ。或ハ
看病ノ人痘兒ノ意ニ戾ル。丁十ドアレ
ハ。種々ノ奇変ヲナシ。或ハ痘兒過去將
来。未夕聞見セザル。丁ヲ言テ。其言前後

ノ丁ニ驗アル。丁杯モアリ。實ニ不可思
議ナル。丁多キモノナリ。先生ハ此ヲ鬼
神ノ為ス所ニ非ズ。人ノ精爽然ラシム
トノ玉ヒリ。願クハ其說ヲ詳ニ言ヒ曉
シ玉フベシ。余荅曰。人身ノ中ニ。精爽ト
云クニ物アリ。精ハ一身ノ生活。總テ此
ニ依ルモノナリ。爽ハ精中一種ノ物ニ
テ。人ノ思慮及ハサル。奇異ヲナスモノ
是ナリ。假令ハ人強死ナドシテ。怨魂散セ
ス。或ハ人ニ憑リ。或ハ世ニ所謂遊靈十

ド、云フモノニナリテ。奇異ナルトヲ
為シ行フモノハ。皆爽氣ノ為ス所ナリ。
痘兒十トハ。餘病ト異ナリ。有餘ノ精液
癸出スルモノ故。精中ノ爽氣モ。妄ニ動
キ出テ、思慮ノ及ヒ難キ種々ノ奇異
アルモノナリ。一身ノ精爽ト云フモノ
ハ。不思議ノ奇異ヲ成スモノナルト。孔
夫子モ博物之君子也ト感心シテ褒メ
玉ヒシ。鄭ノ子産ト云人ガ辨ニ置キタ
ルト。左傳ニ見ヘタルヲ覽テ知ルヘシ。

左傳昭七年曰。子産適晉。趙景子問焉曰。
伯有犹能為鬼乎。子産曰能。人生始化曰
魄。既生魄。陽曰魂。用物精多則魂魄強。是
以有精爽。至於神明。於古人說テ為トナ
ス王引之カ經傳氣
詞ニ見匹夫匹婦強死其魂魄犹能馮依
於人。以為淫厉。况良霄我先君穆公之曾
子良之孫。子耳之子。敝邑之卿。從政三世
矣。鄭虽無諛。抑諺曰。蕞尔國而三世執政
柄。其用物也弘矣。其取精也多矣。其族又
大。所馮厚矣。而強死能為鬼。不亦宜乎ト。

アリ。其所ノ孔穎達カ正義ニ云ク。精亦
神也。爽亦明也。精是神之未著。爽是明之
未昭ト説ケリ。其意ハ精爽ハ人身中ニ
アリテ。未タ著昭ナラサルノ名。其二物
ハタラキ出テ、著昭ナレハ。神明不思
議ノ了ヲ為スモノト云フ意ナリ。此ニ
由テ之ヲ觀レハ。人ニ精爽ト云フ物ア
リテ。時アツテハ。不思議ノ了ヲ為スモ
ノナリ。必ス別ニ鬼神アルモノニアラ
サル。丁明カナルヘシ。然ルニ中華ノ医

黃晟ナト、云フ人ハ。康熙中ノ大家ナ
ルニ。集驗良方ト云フ書ヲ著シテ。痘神
ハ敬フヘキトシ。説キ置キタリ。余讀其
書。不覺噴飯滿案ス。
○某氏又問曰。我蘭家ハ終テ診脉ヲ置セ
ス。漢家ハ何レノ病ニ限ラス。診脉ヲ勞
一ノ察法トナス由ナルカ。乳児ノ痘瘡
ニモ。診脉ヲ重スルモノナルヤ。余答曰。
余ハ治療ヲ行ハサル故。乳子ノ脉ヲ實
用ニ試タルトナケレト。張介賓ハ凡ソ

人。胞胎ヲ脱スル後。脉ノ辨スベキ。丁。必
ス。アル。モ。ノ。ナリ。ト。論シ。置キ。タリ。何ニ
サマ。素問通評虛實論ニ。黃帝曰。乳子而
病熱。脉懸小者何如。岐伯曰。手足溫則生。
寒則死。帝曰。乳子中風熱。喘鳴肩息者。脉
何如。岐伯曰。喘鳴肩息者。脉實大也。緩則
生。急則死。トアルハ。乳子ニモ診脉スハ
キハ。上古神聖ノ方法ト見ヘタリ。然ル
ニ。後世ニ至リテハ。脉學暗ミ。幼科如水
鏡訣ト云フ書。及ヒ全幼心鑑ト云フ書

十トニハ。別ニ三関ヲ察スル法ヲ立テ
、診脉ハ乳子ニ無用ナルモノニ論シ
タリ。然シ。此ハ古医方法ニ背ケタル丁
故。張介賓力素問ノ注ニ。誅ラレタリ。其
言ニ曰ク。夫三関乃手陽明之浮絡。原不
足以候藏府之氣。且凡在小兒。無論病與
不病。此脉皆紫白而兼手青紅。虽時有濃
淡之異。而四色常不相離也。何以辨其紫
為風。紅為寒。青為驚。白為疳。又何以辨其
雷驚。人驚。水驚。獸驚之的確乎。即余初年

亦用此法。然惟測摸疑似。終屬茫然。奈何。
近代_二匡家_一。習此為常。全不知脈。欲濟其危。
胡可得也。及徧考內經。則並無三關名目。
惟經脈篇有察手魚之色者。若手近之。然
乃槩言診法。亦非。他為小兒也。然則三關
之說。特後世之異端耳。不足憑也。一ハ
批レハ。乳子ノ察法。毛三關ヨリ診脈ハ
第一ト見ヘタリ。又顛顛經ト云フ書ニ
ハ。兒三歲以下為純陽。脈以一寸取之ト
說キ置ケリ。又晉王叔和十トハ。流石診

脈ニ長シタル人ニハ。兒生死候歌ト云
フモノヲ作リテ。小兒乳後輒吧逆更兼_{トモ}
脈乱_ヲ無憂慮。弦急之時被_ニ氣纏。脈緩即是
不消乳。緊數細快亦少苦。虛滯邪氣驚風
助。痢下宜腸急痛時。浮大之脈歸泉路ト
云ハレタリ。又莊氏脈歌。及七葉先生辨
兒四季受脈ト云フモノナドニモ。皆亦
子ノ脈ヲ論シタリ。然ルニ。當今ノ世。醫
家ニ。小兒ハ三歲以後。始テ診脈スハシ
ト云フ人アリ。此ハ幼々新書ニ。嬰童室

鑑ヲ引テ。児三歳至七歳。其脉駛。一息七
八至。为平。ト云フヲ誤リ解シテ。三歳以
後。小児ノ脉。始テ診スヘト云フト覺
タルナリ。然シ。宝鑑ニカク言レタルハ。
十歳八蒸。大抵ノ數ヲ舉タルモノニテ。
小児三歳以後ニ及テ。始テ診脉スヘシ
ト云フニ非スト云フ説ハ正シキナリ。
十歳八蒸ノ下ハ。古今医統ト云書ニ委
ク論シタリ。今ハニ用ナシ。故ニ略シ
ヌ。

某氏又問曰。我蘭家ニテハ。神經ト云モ
ノヲ立テ。夫ヲ又ニツニ分チ。一ハ意識
神經ト名ケ。一ツハ運化神經ト名ケテ。
心性形骸ノ用。此ノ二物ニテ統ヘタリ。
漢家ニテモ。此二物ノ名ハ無カル間敷
思ハル。ガ。漢ニテハ何ト名ツケタル
モノナルヤ。余答曰。蘭ニ所謂意識神經
ト云フモノハ。漢ニ所謂魂ノ下ナルハ
シ。運化神經ト云フモノハ。魄ノ下ナル
ヘシ。前既ニ靈柩本神篇。及ヒ左傳昭七

年ヲ引テ説タル如ク。魂魄ハ皆神靈ノ
名ニテ。氣ニ附ク神ヲ。魂ト名ケ。形ニ附
ク神ヲ魄ト名ケ。凡ソ人初生ノ時ヨリ
耳目聞見。手足運動。啼呼シテ声ヲ為ス
ノ類ハ。形骸ニ附クノ神ナリ。又精神性
識。漸ク知ル所アルノ類ハ。元氣ニ附ク
ノ神ナリ。其而神ハ一身ノ分肉中ニ流
通スルモノナリ。其所ヲ曉理ト名ケ。全
匱藏府經絡先後病篇ニ。曉者是三焦通
會元真之處。為血氣所注。理者是皮膚藏

藏府之文理也。ト説キ玉フ是ナリ。蘭ニ
テハ此ヲ神經ト名ケテ。只神ノ往來ス
ル所ニノミ名アリテ。往來スル神ノ名
ヲ。ニツニ魂魄ト云フ如クニ。名ヲ別ツ
テヲ知ラズ。又叙各ト云フ儒書ニ。經ト
ハ徑也ト説テ。經絡ノ經ハ徑ト同シ。氣
ノ道路ト云フナリ。故テ氣ノ場所ヲ漢
家ニテハ。至極細密ニ分ケテ。名ヲ立テ
タリ。靈柩九針十二原篇ニ。經脉十二絡
脉十五。凡二十七氣。以上下所出為井。所

溜^レ為^レ策。所^レ注^レ為^レ喻。所^レ行^レ為^レ經。所^レ入^レ為^レ合。ト
說^キ玉^ヒリ。此等ハ漢家ハ蘭^ニ止^スレ
ハ。至極精密ナルモノナレ^ハ。蘭家ハ漢
ノ神聖ノ說ヲ知^ラス。今ハ漢家ハ已^ノ
學ニ暗^キ故。溜々天下。皆漢ハ疎^ニシ^テ
蘭ハ密ナリト思^ヘルハ。長大息ノ至リ
ト謂^フベシ。叔又蘭家已ノ學ヲ窮理ト
名ツケテ。誇^ラレシガ。窮理ト云フ文字
ハ。周易ノ係辭使^ニ。始^テ孔子ノ玉フ文
語ニテ。凡ソ耳目及^ヒ難^キ所。知慮悟リ

得^ヘカラサル所ノ如^キ心識默契シテ。其
理ニ通徹スル^ヲ。窮理トノ玉フモノ
ナリ。夫故聰明ノ聖人ナラテハ。窮理ス
ト云ヒ難^キナリ。蘭ハ其物ノ形狀ナ
トノ^ヲヨリ。耳目及^フヘキ^ヲノ理ヲ說
クギリノ^ヲナル^ニ。窮理學ト云ヒシハ。
僭稱甚シト云^フシ。此ハ名ヲ改^メテ。格
物格物ト云^フ文字ハ。大學ニ見^ヘテ。毛
夕ル^ハ正^シ王^ノ士^ノ復^ルノ^ハ。校^ニ證^ハ。余^ノ力^ヲ學^トニ^テ
著^ス大學評解ニ^ハ。當^ラ然^{ナル}ハシヤト思^ハ
モ。言^ヒタラハ。當然ナルハシヤト思^ハ

ル、ナリ。
○某氏又問曰。今ノ世俗。凡ソ病アルトシ
不快ト称スルハ。漢語ニハ當ラサル様
ニ思ハル、ナリ。如何ナルヤ。医書ナト
ニモ有ル丁カ。医案ナト。詠ムルニ用ヒ
唯ク思ナリ。余荅曰。否ス。三国志方技傳
曰。有一士大夫。不快。佗云。君病深。當破腹
取。陶宗儀カ輟耕錄云。世諺有疾曰不快。
トアルハ。アナガチ不通ノ言ニ非サル
ナリ。今ノ俗言ニ。不通ト思ハル、辞ア

リテ。其源ヲ尋レハ。古代ノ書ニ本ツキ
タルモノ多クアルナリ。書ヲカク丁ヲ
手跡ト云ヒ。字ヲ習フ丁ヲ手習ト云フ
ハ。我カ
本朝世俗一般ノ辞ナリ。余初ノハ誠ノ
俗言ニテ。雅文ニ用ヒ唯シト思ヒ居リ
タレハ。王充カ論衡ト云フ書ヲ読タル
ニ。筆墨手習ト云フ文字アリ。漢書郊祀
志ノ顏師古カ注ニ。手詔書跡ト云フ文
アリ。王充ハ後漢ノ人。顏師古ハ唐ノ人

ナレハ。手習書跡ト云フ辞ハ。中華ノ古
キ辞ト見ヘタリ。今ノ俗語ニ。間々カク
ノ如ク類。許多アレハ。其出处ヲ究メス
シテ。俄ニ俗言ナリトテ。弃テ難キモノ
ナリ。
○某氏又問曰。世俗無病ナル下ヲ無恙ト
云フハ。太古ノ時人ヲ噬フ獵ナリ。或ハ
虫ナリト云フ下ナル田ヲ聞ケリ。左様
ノ義ナルヤ。又病ノ名ナリト云フ説モ
アル由。此頃聞タリ。先生ノ説ハ如何ナ

ルソヤ。余荅曰。陶宗儀カ輟耕録ト云フ
書ニ。恙ノ説ヲ多分集メアリテ。夫ハ皆
世人ノ知ル所ナリ。余ハ以テク。無恙
ト云フハ。無憂ト云フト同義ナルヘシ。
何ニトナレハ。前漢書公孫弘カ傳ニ。不
幸罹霜露之疾。何恙_ニ不_レ已。顔師古カ注ニ。
恙。憂也。何憂_ニ於_ニ疾_ニ不_レ止也。ト説キ置ケリ。
此ヲ見レハ。恙ヲ獸虫ノ名下ナシ。或ハ
病ノ名トナスハ非ナリ。既ニ罹疾ト云
フテ。又恙ト云ヘハ。恙ハ憂ノ義ニテ。疾

ノ丁ナラサル明ナリ。顔注ニ恙憂也ト
アルハ。爾雅ニ本ツキタルモノナリ。
○某氏又問曰。今ノ医家。藥一色ヲ一貼ト
称ス。其名目ハ。何ノ医書ニ出テタルモ
ノナルヤ。又其名義如何ナルトソマ。余
荅曰。金匱雜療方篇。退五藏虚熱。四時加
減。柴胡飲子方後ニ。右各咬咀。分为三帖。
一帖以水三升。煮取二升。分温三服トノ
玉ヒシハ。藥ニ貼ト云ヒシ權矣ナリ。今
ノ医家。貼ノ字。貼ニ作ルモノハ。貼貼通

用シタルモノナリ。叔又貼ノ字義ニニ
説アリ。一説ハ。帖服也。一帖猶一服也。公
羊傳。僖四年。卒。帖荆。何休注云ク。帖服也。
是其説ノ本ツク所ナリ。又一説ハ。包裹
粘貼ノ義ナリ。一帖猶ヲ一色ト云フト
同シト説タリ。二説ヲ攷ルニ。後説是ニ
似タリ。如何トナレハ。柴胡飲子方後ニ
分为三帖。一帖以水三升。煮取二升。分温
三服。如人行四五里。進一服トアリテ。既
ニ貼ト云ヒ。又服ト云ハ。貼ハ服ナリ。

ト解シテハ。穩ナラサルヘシ。故ニ後説
ノ包裏粘帖ノ義ヲ正説トナスヘシ。又
医家藥袋ニ。大包小包ナド、認メ記ス
ルハ。大包小包ノ名モ。不通ト云フニモ
ナケレ氏。柴胡飲子ノ方後ニ。毎帖分作
三小帖。毎小帖以水一升トノ玉ヒハ。大
帖小帖ト認メ記セハ。古称ニ叶フヘキ
丁ナリ。
○某氏又問曰。世ノ医家。何ノ藥ヲモニ番
煎シサセル人モアリ。又何ノ藥ニテモ

ニ番煎シサセヲ人モアリ。元来漢方ノ
法ニ。ニ番煎シスル丁アリヤ。余荅曰。ニ
番煎シスル丁ハ。古医方法ニアレ氏。然
シ百方ノ中ニ。一方位ニ過キサルナリ。
傷寒論金匱ニ。數百方載セアレ氏。柴胡
飲方後ニ。再合滓为一服。重煮都成四服。
トノ玉フテ。ニ番煎シノ沙汰アルハ。只
此方ノミニ限レリ。左スレハ。今世ノ医
家。藥トニ必スニ番煎シヲ為サシメ
サルモ。古医方法ニ叶ハサル氏。必スニ

番煎シヲ為サシムルハ。就中古医方法
ニ背ケタルナリ。氏ノ医タルモノハ。如
此ノ義モ。心得置ヘキナリ。
○某氏又問曰。愚
本朝ニ生レテ。
本朝ノ医書ヲ讀ス。恥ヘキノ至リナリ。
嘗テ大同類聚方ト云フ医書アル由ヲ
聞ケリ。何ノ代ニ成リタル方書ナルヤ。
語リ玉フベシ。我答曰。如何サマ。大同類
聚方ト云書アリ。此書ハ

本朝医書ノ浩博ナルモノニテ。元一百
卷アリタルモノナリ。其書ノ撰者ハ。安
倍真真。出雲廣貞ト云フ人。
醍醐天皇ノ勅命ヲ蒙リテ。編集セラレ
タルモノナリ。然ルニ。今其原本ハ已佚
シテ。全書ナキモノナリ。筑紫太宰府ノ
菅公之庵中ニ。全本一百卷。今ニ傳ヘア
ルト云フ説アレヒ。虚實明ナラス。叔テ
此書ハ凡ソ三本アリ。一ハ葦葭堂本。一
ハ觀水樓本。一ハ古馬本。此ハ

禁中ノ藏本ナリ。余乃讀シ本
ハ。文政年間。武藤某ノ校刻セシ本ナリ。
又撰津ノ生田神祠。駿河ノ富士宝庫。宇
津宮侯文庫。下総古河。鹿嶋ノ神社。及ヒ
宮匠何某先生ニモ古本アル由ナレ氏。
皆脱簡本ノ様子ナリ。好古ノ士。総合シ
テ。古ノ如ク。百卷ノ舊ニ復セシメハ。妙
ナルヘシド。常々思ヒ居ルナリ。
○某氏又問曰。某氏ノ婦人。年三十六。二三
年已前ヨリ。小腹ニ血塊ヲ生シ。漸ク大

塊ニナリ。腹形鼓脹ノ如ク。此ヲ按スル
ニ。塊ノ大サ。太甜瓜子ノ如ク。兩便常ニ
衰セス。月経モ亦常ノ如ク通。漢医破血
ノ劑ヲ與テ。ハレヲ攻ル。丁一年餘。折ア
ツテ下血アレ氏。其塊ハ益長大ニナリ
テ。少モ功ナシ。三月已前ヨリ。治ヲ愚ニ
乞レリ。愚診察シテ。血塊脹満ニハ相違
ナク思ヘトモ。然シ月経常ノ如クナル
ハ。怪ムヘキト思ヒシナリ。此人ハ必ス多
血症ニテ。平人ノ如ク月経アリテモ。猶

餘血凝滯シテ。塊ヲ成スモノナリト思
ヒテ。内科撰要ナトニモ載セアル。通經
劑ヲ用エレハ。少シモ動ス。色々蘭家製
藥ノ水藥ナトノ猛劑ニテモ。更ニ功ナ
ク。前医ヨリ長久ノ間。破血下劑ヲ用テ
レタルモノ故。追々疲労シテ。此頃竟ニ
歿シタリ。右ノ病症ハ。愚今以テ解シ兼
ルカ。漢家神聖ノ方ニ。良劑ナキモノナ
ルヤ。余笑曰。噫。足下病ヲ視ノ拙キ。此等
ノ病症ハ。蘭家モ定論アルヘキナリ。

若シ無レハ。疎ト云フヘキナリ。其病ハ
血塊病ニテハ。決シテアルマシ。夫ハ寒
氣腸中ニ入リ。血液停滯シテ。腸膜一種
ノ死肉ヲ生シタルモノナリ。其塊血塊
ニ非ス。其腹鼓脹ニアラス。一種ノ病ニ
テ。上古神聖。腸覃病ト名ケ玉フモノナ
ルベシ。此ニ類シテ。診察謬リ易キモノ
多分アル故。岐黄ノ說ニテハ。水ト。膏脹
ト。鼓脹ト。腸覃ト。石瘕ト。石水トノ六種
ニ分ケテ。各其診法ヲ立テ置玉ヘリ。叔

其腸覃病ト云モノヲ。聖杞水脹滿ニ論
シ置キ玉フニ。腸覃何如。岐伯曰。寒氣客
於腸外。與衛氣相搏。氣不得榮。因有所係
癖而內著。惡氣乃起。瘕肉乃生。其始生也
大如雞卵。稍以益大。至其成。如懷子之狀。
久者離藏。按之則堅。推之則移。月事以時
下。此其候也。コノ條ヲ見レハ。足下ノ視
シ病人ハ。腸覃病ナルト明ナルヘシト
云ヒタレハ。某氏勃然色ヲ衰シテ云レ
シニハ。我蘭家究理ノ至レルモノナレハ。

如此。腸覃ナド、云フ。腸ニ瘕肉ノ生ス
ル病ヲ説カス。聖杞ハ怪ムヘキ書ナリ
ト。不快ノ言ヲ出セシ故。余某氏苗癖復
タ起リ。人ニ下ル丁鉉ハサルナリト思
ヒテ。外ガトニシテ云ヒシニ。余酩酊シ
テ。論説既ニ倦ミタリ。願クハ大白一盃
ヲ尽シテ。退席スヘシト。既ニ大盃ニテ
二杯ヲ尽セシニ。主人又強ヒテ數盃ニ
及ヘリ。余沉酒中。口ヨリ出マカセノ詩
一首ヲ賦シ。吟終テ正更ノ時家ニ歸リ

其詩曰。漢客儒生，蘭主_八。議_一論_二正_三否_四有_五。
誰知_六。是_七如_八果_九是_{一〇}何_{一一}須_{一二}辨_{一三}。宜_{一四}和_{一五}天_{一六}倪_{一七}酌_{一八}玉_{一九}卮_{二〇}。

漢蘭酒話續篇終

